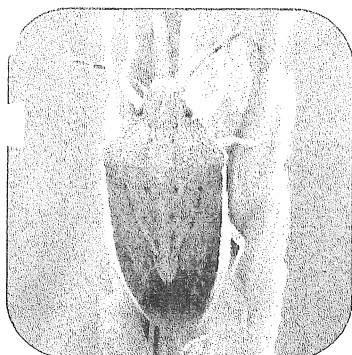
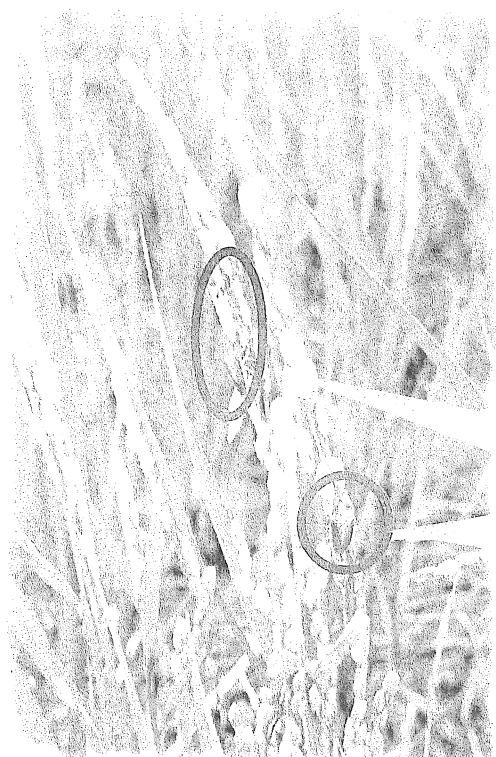


来年のカメムシ類の被害を抑えるため 秋耕を行いましょう

収穫後の水田を耕す秋耕（しゅうこう）は、カメムシ類の越冬前の餌場となる再生稲（ひこばえ）を除去し、翌年の斑点米カメムシ類の被害を軽減するための重要な作業です。

昨年度の再生稲ですくい取り調査を行った結果、県南地域において
イネカメムシの成虫が200頭
以上捕獲されたほ場がありました。



- イネカメムシの行動と影響 ●
- ・イネカメムシは水稻の穂に集まり餌として吸汁加害する
 - ・成虫は越冬前に、再生稲の穂に集まり栄養を補給する
 - ・出穂した再生稲があると、越冬できる個体数が増加し、翌年の発生量が増える可能性が高まる

秋耕の効果

- ・餌場となる再生稲の発生を防止
- ・翌年の斑点米発生リスクを低減

実施のポイント

- ・収穫後できるだけ早く耕起を行う
- ・15cm以上を目標にゆっくり荒く起こす



秋耕は、簡単にできるカメムシ対策の第一歩です。地域ぐるみで取り組み、斑点米の発生を防ぎましょう！

【 種子消毒剤の使用早見表 】

種 子	水	テクリードCフロアブル 200倍	スミチオン乳剤 1000倍	ベンレート水和剤 1000倍	備 考
4kg	8ℓ	40ml	8ml	8g	★テクリードCフロアブル 籾枯細菌病 立枯細菌病苗 褐条病 ばか苗病 いもち病 ごま葉枯病
8kg	16ℓ	80ml	16ml	16g	
10kg	20ℓ	100ml	20ml	20g	
20kg	40ℓ	200ml	40ml	40g	
30kg	60ℓ	300ml	60ml	60g	★スミチオン乳剤 イネ芯枯線虫病
50kg	100ℓ	500ml	100ml	100g	★ベンレート水和剤 いもち病
100kg	200ℓ	1000ml	200ml	200g	

★いもち病(葉いもち)対策

①ベンレート水和剤を混合する場合は、薬液浸漬の後、日陰で半日程度風乾してから浸種する。

②ダコレート水和剤を、播種時から緑化期、但し、播種14日後までに(400~600倍)を1箱あたり500ml灌注処理する。○葉いもち病・苗立枯病(リズープス・トリコデルマ・フザリウム菌)

★ナエファインフロアブル(1000倍)

水50ℓ ⇒ 液剤50ml ⇒ 100箱分

※1箱あたり500mlを播種時に灌注する。

(ピシウム・リズープス・フザリウム菌・ムレ苗は予防的防除。緑化期散布の場合は、1000倍液を灌注する。)

★ナエファイン粉剤

1箱当たり ⇒ 6~8g

【 比重液の作り方 】

比 重	水10ℓ当たり		備 考
	食 塩	硫 安	
1.08	1.11kg	1.46kg	もち種
1.10	1.42kg	1.92kg	種子が不足する場合
1.13	1.94kg	2.68kg	一般種子

※ 温湯(60℃/10分間)で種子消毒を行う場合は塩水選は行わない。

※ ばか苗病に対しては、効果が劣る。

浸漬方法

- ・塩水選
- ↓
- ・水洗い
- ↓
- ・袋詰め(七分目)
- ↓
- ・薬液浸漬(24時間厳守)
- ↓
- ・軽く水切り(水洗いしない)
- ↓ ※ベンレート混合時は半日風乾
- ・水浸漬(水の入替えは、午前中に1回)
- ↓ ※日中温もった水温を夜中まで保つ。
- ・催芽 (ハト胸状態)
- ↓ ※握った手に種籾がつかない程度
- ・播種 に乾かし播種する。

【 弁当肥 】

水20ℓ ⇒ 硫安100g ⇒ 40箱

※散布後は、葉やけ防止のため軽く灌水を行う。

※生育が良く、葉色が濃い場合は行わない。

育苗培土の目安

1箱当たり 床土 ⇒ 2kg } 程度
3.5kg 覆土 ⇒ 1.5kg }

必要箱数 坪 37株⇒11~13箱 } 目安
※植付株数(10a) 坪 50株⇒15~16箱 }
坪 60株⇒18~20箱 }